

3



礼ちゃん



勤くん

(宮崎学園短期大学マスコットキャラクター)

# 後援会だより

October 2012 Vol. 17

授業風景  
「人間の研究」(礼節)」

## 学長所感

### 今、胸中に強く湧き出るもの

学長 山下 忍



平成23年度が終わろうとする今、本学学事暦を4月から順に手繰ってみますと、この1年間についても様々な思いが湧き出てきます。

何よりも授業の充実が第一と、第2学年の年度始めの活動を一日早めたのを始めとして、土曜日の頻繁な活用、あるいは、新たな教育方法の導入等々、時には無理を承知の上で様々なことを行ってきました。

それらがどれほどの効果を生んだか、即座に計ることはできません。ただ私たちは、本学で学ぶ学生達が、これまで以上の充実感を覚えるようでありたいと、そのことを必死に願い求めながら事を行ってきました。その点から言えば、学校としても悔い少なき1年であったと思っています。

そうした自負と共に、私はこの頃しきりに思うこと

があります。それは、私たちは、短期大学という高等教育機関に身を置くことに、もっともっと感謝しなければならないのではないか、という思いであります。

広く全国を見渡しても、地域社会を見つめても、日本はまことに厳しい状況下にあります。そして、その厳しさは一時的なものではない。そうした中で、わが子は高等教育機関で学んでいるし、教職員は大学生を相手に教育活動が出来ている。何より学生は、小中高の学業を終えた後も、大学生として日々を過ごし、学問を継続し得ている。

私たちは、その有難さを、もっと心底から喜び、感謝しなければいけないのではないか。

現に、そのことを心得ながら勉学に励んでくれている学生が数多くいるし、教職員も誇りを抱きながら仕事をしている。また、保護者にあっても、よくぞ宮崎学園短期大学に入学させたと喜んでいただいたりもしている。しかし、私は、その喜びや感謝を、もっと熱く、いわば、坂の上の雲を望むがごとくに、燃えたぎったものにしたい。そうでなければ、今のこの困難な時代、高等教育機関に身を置く者は、申し訳が立たないはずだと、ともかく、この頃、無性に強く思うのです。

# この1年を振り返って

## 保育科

### 伝統を作るのは学生である事を感じた一年

保育科長 野坂 敬

本年度は多くの新生を迎えて、新生の成長に大きな期待と不安を感じながら出発した年でした。しかし、実習指導を中心に取り組んできた学生主体（リーダー養成）の取り組みが、保育科全体行事にも活かされるようになり、結果、予想以上に学生の自発的活動として表れ、実習先との連絡や各種行事が学生によって行われるようになり、当初の不安が楽しみに変わっていった一年でした。それは、早めの学生への情報の伝達や組織化を行い、要点を示し、任せることで、リーダーを中心とした自発的活動が活発になり、責任を持った活動が行われ、課題を達成していったことに現れていきました。この取り組みは様々な面で学生の成長を感じさせ、成長を確信した1年でもありました。この「取り組み」には、まだまだ多くの不足部分はありますが、「こどもが大好き」、「こどもの成長に寄り添いたい」と笑顔で語る学生たちの夢を達成する環境とは、学生自身が作り、学生自らが育て、守ることが、新たな伝統を作っていくことであると改めて感じた一年でした。



## 初等教育科

### 学び手を育てる大学教育への期待

初等教育科長 松野 隆

今、全国的に大学の意識改革が求められています。2008年に中央教育審議会はその答申の中で、「教育改革の実行に当たり、もっとも重要なのは、各大学が教学経営において学位授与の方針（DP）、教育課程編成・実施の方針（CP）、そして入学者受入れの方針（AP）の3つの方針を明確に示すことである」と述べています。つまり、従来の「教員中心」の教育から「学生中心」の学習への転換と「教員個人の教育活動」から「学校組織あげての教育活動」への転換の重視というものです。

本学では数年前から教員によるユニット単位の研究授業の実施による授業力向上に取り組んで来ましたが、今後は、学生一人一人が主体的に授業に参加する姿勢を如何に育てていくかを、先ほどの3つの方針の中に組み込んでいく視点を重視しつつ、学生の力量を高めていきたいと思っております。「何を知っているか」から「何ができるか」への転換と言えましょう。



## 音楽科

### 変革の音楽科！さらに色彩豊かに！

音楽科長 末平 浩康

平成23年度は、音楽科に新設コースが誕生するという変革の年にもなりました。新設されたのは、伝統音楽コースとダンス・ミュージカルコースで、伝統音楽は、箏（琴）、三味線、尺八、日本舞踊、民謡のどれかを専攻するもので、早速、今年度に箏（琴）専攻の女学生が入学して頑張っております。平成24年度には、ダンス・ミュージカルコースにも入学生がいそうで、音楽科は、ピアノや歌をはじめ管楽器（フルート、クラリネット、トランペット、サクソ、ホルン、チューバ）やバイオリン、そして邦楽楽器や電子オルガンなど大変色彩豊かにてぎやかです。合唱団や吹奏楽の活躍も健在で、宮崎学園短期大学の一つの顔として、校内外で、なくてはならない存在です。もちろん、各個人のコンクール等で、いい結果を残し、短大をアピールしてくれています。音楽科や地域との連携、とりわけ附属みどり幼稚園との共演で取り組んでいるミュージカル「ぞうれっしやがやってきた」は、学園短大の名物行事になろうとさえしている感があります。



## 専攻科

### 頑張れピンキーズ！

専攻科音楽療法専攻主任 山下 恵子

音楽大好きな専攻科生は、この1年間それぞれの目標に向かって精一杯頑張りました。学生デザインのピンキーズのポロシャツ群団は、ピンキーズと名付けられました。音楽療法士（補）の全国共通試験に見事合格した学生、希望する保育園、幼稚園、施設等に就職が決まった学生、さらに勉強を続ける学生と一人ひとりが輝いている学生達でした。秋の忍ヶ丘祭、施設での演奏は、皆が力を合わせ見事なステージとなりました。そしてもう一つ、金曜日のお昼を共にして語らいながら、ある時はサプライズの誕生会、おやつタイムなど心温まるたくさんの交流がありました。私自身、そろいのピンクのポロシャツを身につけると、自分が一瞬大学生であったかのような錯覚を感じる楽しい一年となりました。

音楽大好きという学生は、音楽で心ひとつになり、深く深くつながった1年であったと思います。音楽でつながった専攻科生が自信を持って社会に巣立ち、活躍してくれることを心から願っています。頑張れピンキーズ！



### 専攻科（福祉専攻）就職率100%達成

専攻科福祉専攻主任 花畑 明美

少子高齢化の加速に伴い、幼保一元化や保育所に高齢者施設の併設、介護サービスの多様化など福祉人材の確保が急務になっています。このことから、本学専攻科（福祉専攻）修了生は、保育士・幼稚園教諭二種免許・介護福祉士の資格を取得することから益々社会の需要と期待は大きくなってきております。

修了生の進路としては例年、高齢者・障害者介護におおよそ5割、保育所・幼児教育に5割というような状況にあります。このように、一年間で多くの修了生を福祉の現場に輩出しています。一年間の専攻科での学びや実習中の利用者との関わりにおいては、大人、子どもと対象は異なりますが、福祉人材として大切なことが培われていると思っています。

保育科から専攻科進学までの三年間という過程で、地域に求められる人材の育成に務めていきたいと思っています。



## 資格検定への挑戦

人間文化学科長 久保 良一

本学科生にとって、四季を通して日頃の学習や生活等の中で自分を高めようと「強い意識」を持って自分自身を磨いてきたこの一年でした。特に資格検定試験に合格するために、「決してあきらめない心」を持ち、毎日、講義等に出席し、指導者に質問したりクラスの友達とお互いに教え合ったりして理解に努めました。このようにして、一年を通して全力投球しその目標が達成されました。例えば、秘書検定試験準1級合格やワープロ検定全員合格、従来より早期に取り組んだ簿記検定はほとんどの学科生が合格し、また、医療事務・医療秘書コースは日医の資格にも合格しています。

よく「継続は力なり」と言われますが、資格検定取得は自分との心の戦いであり、まさにこの言葉通り毎日、毎日の地道な積み重ねと学科教員の支えが大きな成果をあげたのだと思います。そしてこれが、社会での「即戦力」になることは確実です。

このように、学科生は、「決してあきらめない心」を持ち一生懸命努力した一年でした。

## 思案の日々

文化ビジネスコース 大塚 稔

長らく担任をしていなかったこともあって、はじめのうちは戸惑いを覚えながらの試運転という状況にありました。多少慣れた時期に、文化ビジネスコースの学生たちが参加する企業研修の現場にも行かせていただきました。指導をされている職員の熱心さもさることながら、参加した学生たちの熱意も相当なものでした。彼女たちの神妙な顔つきが脳裏に焼き付いています。学生の中には授業に必要な電卓を、ちゃっかりと借りに来る者もいたり、屈託のない笑顔にほのぼのとさせられることも多かったです。

このような彼女たちが、文化ビジネスコースの将来を担う人材に育つことを願っているのは、担任の私だけではないでしょう。しかし私や先生方がいくら強く望んでみても、学生自身にその意欲がなければ何事も始まりません。意欲を持っていない学生たちに、どうすれば意欲を出させることができるのか。興味を持たせ、自覚を促し、実践・実行させるにはどうすればいいか。思案の毎日でした。

## 本と学友とともに

国語国文コース 原田 真理

平成23年度4月から9月までの学園図書館の一人当たりの資料貸出数は、国語国文コース二年が36.7で断然トップ、次いで国語国文コース一年の21.9でした。三番目が宮崎国際大一年の15.8ですから、当然といえば当然ながらいかに国語国文コースの学生が図書館を活用しているかがわかります。学生時代の読書が将来大きな実りをもたらすとはよく言われることで、充実した学生生活の一端を示しています。また、この一年学校行事他に多くの学生が積極的に参加し、優れた企画力・行動力を発揮しました。国語国文の学生はサポートに回る傾向があるように思っていたのですが、仲間と協力し結果を出すことで着実に自信をつけ、他学科と一緒にリーダーシップを発揮する姿が見られるようになっていきます。

ともすれば性急に結果を求められる時代、国語国文を専門に選んだ学生が困難を感じるおりもありますが、自らを磨きつつ誇りをもって進む姿に頼もしさを感じた一年でした。



## 英語科・英語コミュニケーションコースを振り返って

英語コミュニケーションコース 市崎 一章

既にご存知の方も少なくないと察しますが、昨年4月に本コースは募集停止となり、今年3月の卒業生と共にその歴史を完全に閉ざすことになりました。今から26年前に設置された英語科は、独立学科として18年間存続し、計1,723名の卒業生を送り出しました。その後、受験生の教養系学科離れ（不況による実学系学科人気）や少子化等の影響で、人間文化学科の下位コースとして再スタートを図りましたが、時代の流れには逆らえず、コースとしては計83名の卒業生を輩出するにとどまりました。勤続22年半となった私にとって、卒業生に対しては、出身学科/コースを残せなかった申し訳なさ・無念さは筆舌に尽くし難いです。ただ、1,800名を超える素晴らしい卒業生を社会に輩出できたことに関しては誇りに思っております。本学から英語の文字は消えてしまいましたが、学び舎は、そして元気な後輩たちは永久に残ります。これまで支えていただいた関係各位に心より御礼申し上げますと共に、卒業生のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

## 学生と共に学んだ一年間

医療秘書コース 谷口 和子

今年もまた、慌ただしい1年が終わろうとしています。昨年は意味がよくわからず動いていたような気もしますが、今年ようやく学校の行事や学生の動きなどが見えてきました。しかし、次から次へと初めてのことばかりが押し寄せてくるような感覚を味わっているのは私だけではないでしょう。

医療事務・医療秘書コース2年生には、平成24年2月に医療秘書認定試験が待っています。全員合格を目指しての受験勉強も控えており、資格を取得しての就職としてあげたいという気持ち一杯です。

1年生は初めての医療機関実習があります。希望と期待を胸に入学してきたのだと思うと、是非とも単なる見学実習に終わることなく、医療秘書としての実習も組み込んで貰いたいと考えております。

あっという間の1年間。何か残ったものがあっただけでしょうか。結果を残せるような最後の締めくくりをしていきたいと考えております。

# 宮崎学園短期大学フェスティバル

## 保育フェスティバル4年目の成果

今年度は2度開催し本学交流センターに120名の来場者、イオンモール宮崎イオンホールに517名の来場者がありました。フェスティバル1年目は会場にいる学生数が参加者数より多い傾向でしたが、フェスティバルに関わる



学生の創意工夫や努力が継続してなされ、回を重ねるごとにこのイベントの「楽しさ」が地域の皆様に伝わり、評価して頂いているのではないかと感謝しています。

(守川美輪)

## 音楽科フェスティバルを終えて

音楽科フェスティバルは、他学科とは一足早く10月29日、大坪記念ホールで開催しました。この取り組みも3年目となり、第1部では、学生のアンサンブル、第2部では、音楽科の定番になりつつあるミュージカル「ぞうれっしゃがやってきた」で、今回は、附属みどり幼稚園園児と一緒に楽しい感動的な舞台を創り上げることができました。3年連続となるとマンネリに陥りがちですが、園児たちと演じていると、いつも新鮮な音楽の想いが湧いてきます。



(末平浩康)

## 初等教育フェスティバル開催！！

平成23年12月11日(日)、イオンモール宮崎イオンホールにて初等教育科・人間文化学科合同フェスティバルを開催しました。初等教育科では幼稚園・小学校教諭を目指す学生たちが楽しい手遊びや音楽、人形劇などを披露する他、工作コーナーで訪れた子どもたちと一緒にクリスマスカードなどの製作活動をしました。214名のおお客様がお越し下さり、アンケートでは「楽しかった、子どもたちが楽しく参加することができた、学生さんが一生懸命頑張っていていい雰囲気だった」等、お褒めの感想を頂きました。



(片野郁子)

## 人間文化学科フェスティバルを振り返って

今年度は、「世界に一枚おもしろ記念写真」「ヘルス&マナー講座」「コミック、歌詞の名言集」を企画し、学生が得意とすることを来場者に提供し学科の魅力を伝えようと3つのコーナーを、スタンプラリーで楽しく体験していただくようにしました。青島太平洋マラソンの当日にも関わらず、214名の来場者がありました。ご家族連れの方、幼稚園児から高校生まで参加して下さった方々の笑顔や目の輝きに接することができ、ここでの貴重な体験の一つ一つは学生達の成長と自信に繋がっていくことと思います。



(倉永愛子)

## 本年度の就職内定状況と就職への心構え

企業については、昨年度以上に厳しい就職戦線となり、厳選志向がさらに強まりました。この様な状況で内定を得るためには、筆記試験や面接試験に向けての準備や、企業説明会に参加するなど積極的な姿勢が必要です。

保育園・幼稚園・施設等は、昨年度よりも求人時期が早くなり、年内には殆どどの就職希望者が内定いたしました。ただ、受験すれば必ず採用というわけではなく、厳しい結果もありました。希望の就職をするためには資格だけでなく、自主実習を行う積極性や職業意識が必要です。

一月からは新年度学生向けに、県内で企業説明会も始まっています。三月には学内企業説明会も予定されています。就職活動は、自らを表現する事から始まり、企業説明会へ参加する等して情報を集め、いかに受験に活かすかです。

就職は自分の事です。自ら積極的に動かないと内定を得ることはできません。恐れることなく、就職活動を明るく積極的に行なうよう期待しています。



(就職指導課長 佐土原 敦)

## 卒業式のご案内

卒業式は、学位記・修了証書授与式という形で3月19日(月)10時より体育館で行われます。多くの保護者の参列をお待ち申し上げます。卒業式終了後、教室で学級主任から証書等を受け取りますが、どうぞ保護者の方も教室にお入り下さい。

## 平成24年度後援会総会・保護者会のご案内

後援会総会は、4月7日(土)入学式終了後、11時より体育館で行われます。決算・予算の承認、役員を選出が行われます。多数ご参加下さい。

保護者会は、1年生は5月19日(土)、2年生は10月20日(土)に行う予定です。期日が近づいたときにまたご案内を差し上げますが、全体会で本学の目指していることを説明し、その後、学科に分かれての説明に引き続き、学級主任との面談が行われます。どうぞ奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

## 春のオープンキャンパス

平成24年3月11日(日)

9:30~受付 12:30終了

【ミニ講座・レッスン・コンサート・展示・進学相談】  
駐車場・無料送迎バス、タクシー・軽食あり

(往路) 宮崎駅東口 ~ 南宮崎駅 ~ 宮崎学園短大着 (バス)  
8:50 9:10 9:30  
清武駅 ~ 宮崎学園短大着 (タクシー)  
9:00 9:10

(復路) 短大発 ~ 宮崎駅・清武駅方面 (バス or タクシー)  
12:40

高校1・2年生、保護者の方、先生方の参加をお待ちしています。お知り合いの方にご案内いただくと有難く存じます。詳しくはホームページをご覧ください。http://www.mwjc.ac.jp  
フリーダイヤル ☎0120-310-796 (入試広報部)